

No.	問1①	問1②	問1③	問1④	問2	問3	問4①	問4②	問5
1	健康を維持し、他者との関わりを楽しみながら生活できている。	健康的で趣味や仕事を生きがいとして暮らしている。	定期的に他者と交流したり運動を行う機会や場所があり、自分の楽しみを見つけて元気に過ごせる。	症状やADLが悪化せず、夢や希望をもって過ごせる。	・日中一人で過ごさなければならない高齢者が増えている。 ・近所に交流できる仲間が減ってきている。 ・移動手段がなく思うように外に出いけない人が増えている。	高齢者と子供達が触れ合う場所が出来、お互いに助けあってやりがいを感じられる場所があればよい。	一人ケアマネのため、対応できる人数に限界がある。	市内の事業所で連携できる仕組みがあると良い。 (特に地震や水害などの災害時)	一人ケアマネの事業所のため、相談援助や事務仕事、雑務など多くの業務があるため、時間内に業務をこなす事が難しい。事務職が配置され、給付管理業務のすべてを担ってくれる人がいると助かると思う。
2	住み慣れた地域や自宅で、周りの人と関わりあいが、自分らしい生活が送れる。	社会貢献や趣味、仕事等のやりがいや役割を持っている。	地域の人やサービス(行政、介護保険、インフォーマル)の手助けを受けながら、自分らしく自立した生活を送れる。	家族やサービス(行政、介護保険、インフォーマル)をしながら自分らしく穏やかな生活が送れる。	・交通手段の不足 ・別世代間、高齢者同士の交流や助け合いの気持ち希薄になってきている。	小さな困り事(電球の交換、ゴミ出し、ゴミの分別、転倒して立ち上がれなくなった時等)を電話等ですぐに対応してくれる事業。	・人員不足で新規の受け入れが困難な時がある。 ・業務多忙で電話対応等すぐにできない。(事務員不在)	・市内事業所間の職員の連携 ・交流機会の場や共同で勉強会等	・特定事業所加算をとっていない少人数の事業所は経営が困難になってきている。 ・ケアマネ業務が多様化して業務内容が不明確となっている。
3	年齢による差別がない地域	背筋を伸ばして家事や仕事が程々にできる。仕事は間違えても笑って許してもらえ、管理者が最終確認してくれ仕事をやりたいだけできる。	年齢とともに出来なくなってくることを受け入れ、また抵抗もできる気持ちを持てる支えてくれる人がいる。	家族に迷惑をかけない。出来ればそうなる前に最期を迎えたい。	・子供の減少 ・介護者の生活、職場環境の改善 ・地域に期待しすぎ ・理想と現実が違いすぎる	・コミュニティバス乗車支援。 ・タクシー券 ・そっと見守りしてくれる人 ・半日デイ(入浴あり・午後からもほしい)	ヘルパー、ケアマネ	ヘルパー：料金が安すぎ ケアマネ：なんでもかんでもケアマネに相談という無茶ぶりが行政も含めて多い。業務内容の煩雑。	・子供が減少している中で地域で介護していくのは無理。 ・地域資源というのが実際色々な人がいて、関わりを持ちたくない人もいて、皆それぞれが自分の生活に精一杯な所がある。家で最期は子供が増えることが前提であって、今後は施設や病院が主なのでは？ ・病気の治療が進歩して長生きになったが、本当にそれで良かったのか。親に依存、いつまでも親が生きていくという幻想を持っている人が多い。いずれ最期が来るという事を介護者は判ってほしい。 ・高齢者が老いることを理解していない。なんでも頑張って出来た世代なので、老いてもできると思っていることが問題。高齢者に教育してほしい。
4	健康で自宅での生活が継続できるのが望ましいと思います。	徒歩にて買い物ができ、居場所があると良いと思います。	・公的サービスを使いながら、何かあれば相談できる気軽なシステムがある。 ・通院が負担なくできる。	家族のみに頼らない支援を在宅で受けることができる。	①買い物ができる。②居場所がある。③通院ができる。 ④気軽に相談できる。⑤地域の間人間関係が良好である。 *家族の構成人数が減っているとともに、家族と同居している高齢者が減っているため、それに対応した施策が必要	①地区の公会堂に定期的に看護師さんが来てくれて、健康状態の確認とともに生活相談にもつてくれ、必要時には公的支援にもつなげてくれる。そんなシステムがあったらとても良いと思います。 ②車いすユーザーのための移送サービス ③認知症の方のオープンカフェ ④心の保健室 ⑤市役所に高齢者などが作った作品を飾れるギャラリー ⑥町のいたるところにベンチがある 等	訪問介護事業所です。正規の職員を雇用するには、報酬単価が低く、不安定な雇用しかできません。現在は新規の利用を断らざるを得ない状況です。	①ヘルパー講習の経費が13万近くかかるので、そのための補助金が受けられる。 ②仕事の魅力を発信する場所 ③国の報酬単価引き上げによる一般企業並みの賃金	訪問介護事業所ですが、ヘルパー平均年齢が62歳です。このままだと事業継続は後5年ほどでしょうか？ 従業員にとって仕事がハードなわりに、勤務時間が1か所につき1時間とか2時間の仕事のためまとまった収入になりません。1日5か所も入っていたら腰痛者が増えてしまいます。 事業所には移動時間、待機時間もヘルパーの就労時間にするよう国からの通達があります。 しかしこの菊川では移動に往復30分以上かかります。そのためガソリン代もかかります。今の所、役員給与を下げた何とか運営しています。 事務経費や管理費、法定福利費、研修費、賃借料、保険料等必要経費を考えると健全経営にはほど遠い気がします。
5	ご本人が希望する生活を継続してほしい。	・元気な方もみんな交流できる場所を提供。 ・体操教室、今後のために通所の見学、体験等 ・元気であっても高齢なため、移動手段の検討 ・コミュニティバス、タクシー等 サービス	ご本人が希望する生活ができるよう周りが支援する。 経済的にサービスが難しい方にも使えるような社会にする。	・ご本人が希望する生活ができるよう周りが支援する。 ・周りの方が介護疲れ等ないようサービスを上手に取り入れられるようにする。 経済的にサービスが難しい方にも使えるような社会にする。	・交流の場所(相談できるところをつくる) ・移動手段等、買い物、受診に行きやすい社会にする。				・現状では職員が足りていますが、就業時間等の問題で送迎時間に職員が少なくなってしまう。 ・利用者様の人数が少なめですが、職員が多い時がありますが、今後のために職員の確保はしていきたい(新しい職員もくるとは限らないので)、経営的には…。
6	地域差はあると思うが住み慣れた地元で生活したいという思いが強いと思う。	地域のコミュニティーに属し、自宅以外で生きがいを見いだせる環境にある。	在宅介護を受けながら医療や介護施設を利用している。	在宅介護と訪問介護、デイサービス、ショートステイ等を併用利用しながら生活する。	個々の計画的な外出をサポートできる。	家族以外で定期的に関わる人が周りに存在すること。			一時的には不足の事態を招いても、他地域のグループ事業で賄える環境にある為、窮地には陥ってないと思うが、近隣地域(掛川市、島田市、牧之原市、御前崎市等)との市政同士の連携をもっと強めていけたらと考える。
7	自分の考え、思い、希望を実現できる生活。	「あいうえお」。安心、生きがい、うまい、笑顔、おだやか、心安らかに自分らしく最期まで寿命を全うする。自宅にこだわらず、自分で決めることが大事。	軽度者や重度者で括るのではなく、自分のことは自分で行う。	健康的に生活するには、食事(食べ物)と運動です。やはり食事に配慮する事が大事である。 病気になるたとしても好きな物を最期まで経口摂取できる事。	・配食の充実 ・困り事の集約 ・支援体制の確保	現在の通所は時間が長い、以前あった白岩荘のように、入浴施設の貸し出し、家族やヘルパーが入れることができる短時間の入浴場所。	・短時間働ける職員を何人も雇う。 ・介護や子育てをしながらでも働ける環境。	・収益が少ないので給料をたくさん出すことができない。 ・資格が必要である。 ・パソコン、文章能力などのスキルが必要	
8	在宅でも施設入所していても、家族や近隣住民との関わりを多く持てる生活ができている。互助が充実している生活。	どこかのグループに属しており、孤独でないこと。	・要介護状態が進むことによる不安が少ない。 ・安心して歳を重ねられる。	それぞれの状況に合わせて、安楽に生活ができている。			求人媒体をハローワークや県社協、専門職団体に収束させる。人材紹介会社や派遣会社が福祉業界に参入してきていることで、かつてマッチングしにくくなっていると感じる。施設に入る介護報酬や補助金が人材紹介会社や派遣会社に流れてしまうことについては問題だと思っている。	人材紹介会社や派遣会社及び求人広告事業が多く参入してきていることが、人材確保において弊害になっていると感じる。	
9	・多種多様なサービスを手軽に利用できる。人に優しい町であってほしい。 ・現在は収入面などにより使えるサービスも限定されてくるため、その方にとって本当に必要なサービスが使えているのか疑問がある。	地域の中で活躍できる場を設けていくことが、元氣の出る秘訣だと思えます。(近所づきあい、自治会の中で)	重度化しないための工夫や活動ができればと思います。定年になっても働き続けることができる職場や、新たな趣味活動への取り組みができる環境整備を行っていくことが必要だと思います。(家に閉じこもらない環境づくりが必要)	家庭内での協力、援助関係が重要であると思われます。家庭内での介護がスムーズにできるような行政サービスを検討していただきたいと思えます。(介護離職が起こらない仕組みづくり)	・独居のお年寄りが増えており、独身の方など身内の家族がいない為、介護が難しくなっている。 ・施設入所を検討しても年金も少ないため、施設入所もできない状態の方もいる。	ご本人が日常生活の中で困っていることを援助してくれる事業。(通院、買い物、ゴミ出し、自治会活動など)	介護スタッフについて、夜勤ができるスタッフの不足があります。	特に思いつきません。	夜勤時間帯の細分化ができないか。(深夜帯を外した勤務ができる方がいるのではないかと)
10	市民がお互いに助け合い、皆が生きがい、希望をもって生活できる。	趣味や習い事、経済活動を通じて交友関係を維持し、目的・目標を持って生きている。	障害(困難)があっても助けを受けながらも元氣な高齢者と同等もしくはそれに準じた生き方ができる。	助けを受ける機会、頻度が増えたとしても、悲観する事無く生きがいや希望を持って生きられる。	・免許返納後の移動手段の確立 ・ちょっとした用事、困り事を頼める人がいる。手段を知っている。(自己解決能力向上の爲の教育)	・移動手段(シェアリングで頼めば手軽に自宅、目的地まで来てくれる) ・ゴミ出しサービスは良いと思う。 ・外国語の通訳		・世間では買上げの気運が高まっているのに介護業界では一向にその兆しがない。このままでは人材不足、サービスの質低下は避けられない。(財源の見直しも示していない) ・官で担うところと民に任せるところのバランスが良くない気がします。規制は強い、支援は少なめでは生き残っていない事業所が増えると思えます。	
11	・住み慣れた土地での生活が継続できる。周りの協力者がいると良い。	・農家なら自分のできる仕事(草取りetc)を無理なく続ける。 ・皆で集まる所をつくる。 ・なんでも危険だととりあげない。	時々サービスを使い、皆とおしゃべりができる。(交流)	無理せず行政のサービスを使う。	買い物や病院に行く手段が少ない。	・身近に代行業者 ・家庭医の充実	現在は無い。 以前利用者さんの希望があったが、介護員の不足で検討したことがあった。	・介護職員の入れ替えが多い ・常に人員不足 ・賃金が安いと思う	
12	目的をもって社会に参加できる。	仕事を少しでもする機会を持ち、必要とされていることを自覚できる。	社会生活に参加できる機会(介護保険外)を得て人の役に立つことの実感を得る。それにより生きがいを見つ、精神的、肉体的に元気に過ごす。	人に手助けをしてもらうだけでなく、自分のできる能力をいかす。	・独居利用者の生活の不便さ ・買い物と近所づきあい	介護保険外で気軽に話しかけられる場所(いつでも誰でも参加)			
13	・自宅で生活が続けられる。 ・役割をもって生活できる。 ・地域の中であいさつしたりなどの関係が保たれている。	役割をもって生活できる。一 地域でちょっとした助け合いが気軽に行える。	・地域との関係性が保たれている。 ・自宅で生活が続けられる。 ・地域に受け入れられ、支援され、その人らしく生活できる。	・公的な支援や地域からの支援が適切に活用され、自宅で生活が続けられる。 ・地域に受け入れられ、その人らしく暮らしている。	・ちょっとした支援があれば続けられる事(例えば買い物、ゴミ捨て、電氣の交換、草取り、声掛け、見守りなど)をどうつなげていくか。「つながり」を作るための支援。	記入例のようなことはできると良いなあと思えます。それをつなぐための事業があれば良いと思います。		支援者を支援する体制づくり	
14	住み慣れた家で近所の人達との関わりを持ち、本人ができる家庭内の仕事をもち、毎日に張りがある生活の維持	社会との関わりがあり、出かける場があり、元気で過ごせる。	自分でできる事を継続し、できない所を少しお手伝いしてもらい、今の生活を維持できる。	必要な支援(介護保険や社会資源)を希望するよう受け入れ、心配のない生活ができる。	・我慢しなければならない事が増えている。 ・交流できる所がなく、閉じこもりになっている高齢者が増えている。	ちょっとした困り事、ゴミ出し、電球交換等を安価かボランティアでやってくれたり、大掃除のお手伝いをして下さるボランティア等	8:00前の時間は加算が付くので8:00～の利用希望が多く、またデイサービスに出かける為の身支度、送り出しの依頼が多くなり職員が不足の為に断ったケースがあり、朝の8:00～1時間程度でも勤務ができる介護職の人が数名不足	市で職に就く前提で資格を取れるようにして欲しい。	訪問介護を希望する人が無く、職員が高齢化し、色々な事が難しくなっている。体力、対応力、記憶力等
15	・家族と共に在宅で生活ができる。 ・趣味を持ち、終生生きがいを感じられる生活を送ることができる。	趣味を持ち地域の方々と触れ合いながら住み慣れた地域で生活できる。	家の周囲を散歩したり、動ける範囲での住み慣れた地域で生活できる。	地域のサービスを利用しながら住み慣れた自宅で生活できる。	強制的な事業より、目の前で不便な事柄を解決する事例:地域毎に利用できる散歩道、出前配食サービスの充実	・ハウスクリーニング、買い物サービス、庭の手入れ等気軽に頼めるサービス ・シルバー人材の育成		訪問系サービスの職員不足、特に訪問ヘルパー利用者やその家族の要望がヒートアップして、ヘルパーに就く人材が育たない	
16	住み慣れた家での生活維持	・趣味活動の充実、サークル活動に参加しやすい環境 ・文科系(絵画、陶芸) 活動系(温泉めぐり、ハイキング、家庭菜園)	子供や身内には迷惑かけず、自分が困る時だけ誰かにサポートして欲しい。車の運転が出来ず買い物、受診など	・自宅での生活したい反面、自分ではできない事が多い(保清、食事面) ・サービスを依頼して生活していきたい。 困った時の相談窓口があれば安心	・高齢者の独居、老夫婦等身内にいない事が多い(保清、食事面) ・サービスに繋げる事が分からない又はできない ・金銭面、本人又は家族の引きこもりになる支援拒否	・交通手段の充実(腰の痛み等でバス通りまで行けない、運行時間が限られている) ・困った時にすぐ相談できる窓口や対応		通所系は給料面から若い人の就職率があまり良いとは言えず職員の年齢が比較的高い傾向又、パートさんは子供の用事で休む事が多く、祝日などの営業日が重なり配置が大変な時あり	

No.	問1①	問1②	問1③	問1④	問2	問3	問4①	問4②	問5
17	本人の希望する住み慣れた地域で、健康で元気に自分の望む生活が継続できる。	・張り合いや楽しみを持って元気に過ごせる。 ・病氣やケガをしなくて元気で暮らせる。	健康で暮らせるための努力を行い、できない部分の支援を受けて本人の望む暮らしが継続できる。	・要介護状態になっても、支援を受けながら本人の望む暮らしができる。 ・寝たきり状態になっても尊厳が保持され、安心して穏やかに暮らせる。	・交流の場が少ない ・個人の健康への意識が低い	・免許返納しても困らず、外出や受診ができる。 ・身近なちょっとした困り事に対応してくれるボランティア ・本人の趣味や楽しめる活動の場	定員がいっぱいで新規を断ったケースがある	市でケアマネの処遇改善や補助を出して欲しい。	
18	地域社会との繋がりをもちながら、自宅や施設などで安心して生活できる。	・自立した生活を送ることができる。 ・役割や社会との繋がりをもち、生き生きと生活できる。	・必要な支援を受けることで、安心して自宅での生活が継続できる。社会との繋がりが保てる。	必要な支援を受け、自宅、施設を問わず安心して過ごすことができる。	公共交通機関が少なく、買い物、受診等外出がしにくい。	・生活面、健康面、困りごと等を地域に相談できる場所や事業があること。 ・ゴミ出しや外出時の送迎、自宅の掃除、草刈りなど介護保険でカバーできないところの支援 ・近所の人たちがお互いを見守ったり助け合うことができること。(地域力を高める教育や指導を行う事業)	正規職員の看護師が1名のみとなり、24時間体制での緊急時対応ができなくなったため、緊急時の対応に必要な利用者の受け入れができなくなった。正規職員看護師が2〜3名不足している。	潜在看護師も含め、看護師の紹介、就職活動支援	法人内に他に正規職員の看護師がいないため補充ができず、業務縮小となった。正規職員の確保が課題。
19	・少しでも長く自分の住み慣れた環境で本人の望む生活を送ることができる。 ・家族や周囲の方が認知症等への理解・受入れができて共に生活できる。	・高齢者同士が集まり、楽しめる行事に参加できる。 ・高齢者同士でも自分ができるところを助けてもらうことができる。 ・得意な事、できることを発揮できる場所、生きがいを持つ。	・自分ができるところを継続してできる。 ・見守りや軽介助で外出や集まりに参加できる。	家族や周囲の協力で、その人らしさが残せるような楽しい時間、穏やかに過ごせる場所や環境を持つことができる。	・免許証を返納したことが一つのきっかけになり、こもりがちの人が増えてしまっている。 ・免許証を返納しても返納してからのサービスがない。(タクシー無料、割引券等) ・集まりや行事がない為、得意な事、できる事を発揮できる場がない。生きがいを持っていない。 ・介護をする家族の集まりやサポートの充実	・高齢者が家族を通さなくても直接相談できる場所、窓口 ・ひとり暮らし、老老介護などのお宅への訪問、買い物、外出支援などの充実 ・高齢者向けのイベント			・職員のレベルアップが必要！ ・介護職員の年齢層が高くなってきている。 ・専門知識を持った若い職員がいるとありがたい。
20	ご本人や家族の希望するサービスが分かりやすく、かつ、サービス提供を受けやすい状態にあり、充実した生活が送れている。	自身での生活ができ、地域住民と関係性が築けて自立した生活	サポートを受けやす相談体制もあり、ご自分の事は自分でやりたいという気持ちを持って生活ができる。安心して生活ができる。	・ご本人やご家族を含め、介護負担軽減のサポート体制が出来ている。 ・介護を受けるにあたりサービスが充実していて、要介護者やその家族が自由に選択できる体制。 ・心身ともに安定した生活が送れている。	・気軽に外出ができない。 ・車の運転ができない方へのサポート体制がない。 ・近隣の方との交流の場の減少。	・介護保険を使う前の段階で、その方のニーズに合わせ柔軟に対応できる制度。	・介護職で土日や祝日の出勤数不足があり、事業所として平日に比べ3人ほどの出勤数の減少があります。	子育てが終わった世代の方へのアプローチ。	介護施設において、看護師や機能訓練士・介護福祉士の不足があり、急な休みの際に上記の資格のスタッフが不足すると減算対象になり得るため、慢性的に多めにスタッフを確保する必要があるが、現状難しい状況です。
21	住み慣れた家、地域で過ごし続ける	就労、趣味、ボランティアなど地域社会で生きがいを持って暮らす。	家庭での役割、自分でできることは周囲の見守りのもと、続けさせてもらえる(役割を喪失させない)	自分のみならず、介護をはじめとする自分の助けしてくれる人、支援してくれている人の生活、暮らしも考え、1日でも長く住み慣れた家で過ごすために介護サービスを利用する。	・隣人関係が疎遠な独居者への行政の支援強化 ・コロナ禍後の民生児童委員さんの活動への行政の支援	・行政車両の青/白(青色防犯/白ロール)活動への登録・参加 ・世代間交流の機会を増やす。 ・各地区で行われているサロンへの小中学生などの参加促進(開催曜日や時間の再考)	年度首の時期に介護職員への返報があり、間いにある通り現在新規利用の受け入れを見合わせている(市内居宅介護支援事業所にはその旨通知済み) ①介護業務に携わる職員が不足している 終了後車で自宅にお送りする送迎ができる介護職員が不足している(フルタイムで勤務できる入職希望者がいない) 介護職員の配置基準(利用者数-15)÷5+1>上はクリアしているものの、基準上の人員のみではサービスの質を確保できない	・子育て世代や親の介護を終えた方への介護事業就労(復帰)支援 ・学童保育の受け入れ体制の整備 ・保育園への入園配慮(時間延長含む) ・復帰に向けての準備金的な形や一定期間就労後の支援金など金銭的な支援事業による就労希望者の掘り起こし	ギリギリの人員配置では、今回のような新型コロナウイルス感染症に伴う出勤停止や外出自粛、自然災害発生時などの突発的な不足の事態に対応できない。ごく一部の事業所であると思うが、スタッフの退職希望を受けない(雇用契約期間中の退職を認めない)事業所があるため当方への入職時期がずれ込んでしまっている事例があり、困惑している。
22	要介護状態になる前の集いの場があり、独居及び高齢者世帯の実態を把握できる環境の中で住み慣れた場所最後まで生活することができる。	できる元気な高齢者が、何らかの事が原因で、できなくなってしまった高齢者をお互いに支援していく環境、活躍の場があることが理想の姿と考える。	全てができなくなった訳ではない為、公費を使用し支援を受けるのではなく、②にも記載したようなお互いを支援できる姿・環境が理想であると考え。	・ご本人の意思確認が出来ている状態 で、「最期」をどうしたいのかを支援者・家族が考え、他者の支援者に繋げていき住み慣れた生活を維持する姿。 ・「自宅」のみに捕らわれずに、自分の生活をどこで送ることがベストなのか選択できる環境がある事も理想であると考え。	・独居・高齢者世帯のみならず、ゴミ出しや買い物、栄養が偏らない食事の提供等の生活支援を公費である介護保険以外で賄える環境とマンパワーの確保。 ・地域課題の洗い出しを、地元住民が考える環境。 (自分たちの環境は自分たちで変えていく意識) ・独居・高齢者世帯のみが行きがちであるが、同居家族がいる場合でも、家族関係が多様化しており、入所が多くなっている現状があると思う。縛りをなくした支援が必要と考える。	・ゴミの分別支援 ・ゴミ出し支援 ・高齢者同士の移動手段の確保(例:友人宅に行き話をする等の場合) ・単純な郵便物の内容確認(後見手続きではないが、分からない郵便物がある場合程度のもの) ・ネットを使用しない手続き等ができる場合の手続き支援	・福祉・介護の仕事が「未資格でもできます」と言って募集しても、結局は資格要件で資金が変化するので、重労働の割には資金が安く、休みがバラバラなので資格取得支援・資金の確保が必要だと思う。 →菊川市の場合、人数は足りているが、今後数年の間に次世代のケアマネが育成できていない為、不足する事が目に見えている。「大変だからやりたくない」という方が多くなっているのが現状です。 ・訪問系のリハビリ:市内の事業所では賄えない為、他市の事業所に依頼する現状あり。 ・短期入所・人員不足なのか、施設不足なのかは紙一重なのですが…。	・福祉・介護の仕事が「未資格でもできます」と言っても募集しても、結局は資格要件で資金が変化するので、重労働の割には資金が安く、休みがバラバラなので資格取得支援・資金の確保が必要だと思う。 ・ケアマネの確保は、保険者(市)ごとに、研修プログラムも異なる為、各事業所がバラバラに行っている研修・教育プログラムを包括、ケアマネ協議会等と相談しながら市ごとで行えば、事業所負担も減るかも? ・ケアマネの本来の仕事以外の事で行わなければならない事が多すぎて、新しいケアマネが育っていかないので?	
23	介護サービスを適切な場面で利用しながらの在宅生活の継続	地域社会活動等への参加	必要な場面での必要な介護サービスを利用した残存機能の維持	介護負担の軽減を図りながら、在宅生活の継続	公共交通機関の少なさ	共存共栄生活	短期入所利用可能数の少なさ	通所系(リハビリ)施設	利用者数に対する専門職数の少なさ
24	・最低限の生活は自立できている姿 ・やりたい事ができる姿	日常生活は自立している、介助を必要としない生活(外出含める)	身の回りの事は自力で出来ている姿		高齢者が出ていける場所やできる事を増やす。		早番、日勤、遅番と各シフトで業務も多少違いがあります。最低でも日中各ユニットで3人は職員がいなくて他の番に仕事の負担がかり、休憩時間もずらす必要があります。入居者の状態等で入浴予定者を削らなければならない場面があります。	各ユニットに早番、日勤、遅番を各1人設定(管理者含まず)する。	管理者は別枠にし、シフトを組んでいくのが理想的です。現状は管理者もシフトに入っているため、管理者の仕事や他、入居者対応に追われ、シフトにちゃんと入れない日もあるようです。管理者は自身の仕事が終わらず、現場は足りずで二重苦になっています。
25	住み慣れた町で住み慣れた家で生活できるように家族や近隣住民、市町村が全てサポートする協力体制が出来ている。	自立した生活を送りつつ地域住民と関わりを持ち、余暇活動や農作業が行える環境にある。	困った時に頼る場所や相談する機関がある。	いつでもケアマネージャー等に相談できる体制であり、介護保険を利用し、できる限り在宅での暮らしを継続し、急な身体的、認知的低下の時でも施設入所等の対応をしてもらえる環境にある。	移動手段が少なく外出が少ない高齢者が増えている。	老老介護の介護者側の支援や相談窓口を増やす。	管理者業務と介護職の兼務のため、人数が不足の場合は介護業務優先になってしまう。	いろんな面での相談窓口	職員不足のため職員の指導等が余裕をもって出来ない、余裕のあるケアが提供できていない。
26	医療機関、買い物ができる店、金融機関が近くにあり、住み慣れた顔なじみの人が居る場所で、孤独感なく暮らせること。	年齢に関係なく、元気なうちは仕事や役割を持って過ごせる。	買い物や通院などの移動支援が充実し、不自由なく外出ができる。	在宅医療が広がり(訪問診療医が増え)、在宅サービスが充実し安心して暮らせる。	・外食支援 ・食の安定	・移動支援の充実 福祉有償輸送の緩和、課題はあり現実的ではないかもしれないが、福祉施設で日中使用していない福祉車両を有効に使うなど。 ・働く意欲や能力がある高齢者に対する支援			・介護人材の不足 今後、ケアマネ、訪問介護員の不足がもっとも深刻化すると思います。 ・小さい法人(併設の地域密着通所介護)なので、リハビリスタッフなど専門職の確保が難しく、加算体制を取ることが困難。居宅支援についても人件費の面で新たな人材確保が難しい。 ・NPO法人の存続(後継者問題)
27	楽しみと生きがいがある生活が送れること。	楽しみと生きがいがあり、将来への不安が少ない生活が送れること。	楽しみと生きがいがあり、自分の意志で生活が送れること。	楽しみと生きがいがあり、家族への介護負担に對して負い目を感じないで生活できること。	とにかく足の問題。	緊急な事項に対応してくれた事業所に対する市からの補助金制度創設			菊川市内の介護保険事業所の有志で「有志求人ネット」を行っています。もともと、拡大した市内のネットワークを展開し、人材が市外に流出することを防ぐ必要があると思います。とにかく、介護事業所の人件費の安さを改善しなければ、5年後には全国的に人材不足が進み、現状を維持できなくなるのは明らかだと思います。とても危険な状態と危機感を持っています。
28	住み慣れた地域で、親しみのある人達と交流できる。	趣味や、できる仕事を続けられる環境	デイサービス等を利用しながらも自分の活動は続けられる。	サービス等を利用しながら、家族の負担(介護)を減らし、本人、家族のよりよい関係でいられる。	困っている事(高齢者が)を伝えられる環境づくり	・独居でも生活が成り立つ為のサポート ・近所、事業所、信頼関係を持てる人材の育成			職員の年齢が高くなっているため、若い職員が居たら…。足りない訳ではありません。
29	住み慣れた家で自分らしく生活できている。	住み慣れた家で自分らしく生活できている。	住み慣れた家で自分らしく生活できている。	住み慣れた家で自分らしく生活できている。	通院や買い物に自身で行けなくなっている。	・自宅の草刈りや木を切る ・定期的な訪問による見守り			
30	住み慣れた所で生活できている人は多いと思うが、家族をサポートできているかは分からない。	畑や仕事のある高齢者は幸せだと思う。	家で不安なく生活できるのが一番だと思う。	本人の理解があれば一番良いが、なくても施設で暮らす方が安全だと思う。	車が無いと生活できないので、運転免許の返納は難しい。歩いて買い物も荷物が重いと大変だと思う。	農家の跡取りがない、嫁がない、ずっと息子の世話をしている高齢者、働かないと生活できない高齢者が多くなる。歩いて買い物も荷物が重いと大変だと思う。	人員を介護職とリーダー職に分けて欲しい。業務の兼任は見守り不足を生む。急な欠員にも対応可能になると思う。(急な受診、急な欠勤等)	リーダー、管理者は通常業務のシフトに入れない。常に日勤帯で出勤し、シフトは他の介護職のみで組み、不足時業務に入る。	早番、日勤、遅番が確実に居る様にして欲しいです。特に日曜日は必要です。問4で書いた通り、リーダー以上はその業務に常時し、日勤帯の補助でできる位置で勤務する。(立ち上がり不安定な利用者が多くなると見守りができなくなるので)
31	住み慣れた環境で生活できる。	健康寿命が延びる。	保有能力が生かせる生活	できる機能を減らさない	交通手段が増える	・買い物代行 ・移動販売 ・送迎付きのリハビリ(軽運動)施設			今の人数で大丈夫だと思います。
32	自分の家で思うままに生活が出来ている。	余暇活動に参加したり、日常生活が自分でできる。	自分の事は自分で行える。	サービスを利用しながら、本人も家族も安心した生活を送る。	認知はないが、運転免許証を返納した方のケア(買い物や病院、その他)もひとつだと思ふ。	病院、買い物、市の行事などの送迎			日中職員が増えたら ・活動が増やせると思う ・担当の仕事が時間内にできると思う ・体が疲れないと思う
33	生まれ育ったり結婚してから、ずっと住み慣れた町で暮らす。(地域と関わりながら)	家族と一緒に暮らし、地域とのつながりを大事にできる。	デイサービス等利用しながら地域での生活が継続できる。	地域の施設に入所し、介護してもらいながら自分らしい生活を送ることができる。	買い物、通院に行くのが難しい。	一人暮らしや高齢者世帯が買い物に行き、商品等のアドバイスを受けることができる。(送迎や買い物付き添い)	食事介助、他の利用者(ムセのリスクある)食事見守り、転倒リスクのある他の利用者がトイレに立つのを同時に一人で見なくてはいけない時	専門学校生などの実習生受け入れをして、グループホームをもっと知ってもらふ。	早番、日勤、遅番は欠ける事なく良い方が良いと思います。

No.	問1①	問1②	問1③	問1④	問2	問3	問4①	問4②	問5
34	・個々の住民が希望する生活が送れる。(安全に) ・住み慣れた地域である事、居宅であることにこだわらない。	・地域の中で、家族の中で自分の役割を持ち、自分でできる事は自分で行う。 ・積極的に身体を動かし、他者とのコミュニケーションを取る。	・地域の中で、家族の中で自分の役割を持たせ、自分でできる事は自分で行う機会を他者が奪わない。 ・積極的に身体を動かしたり、他者とのコミュニケーションが取れる環境を作る。	地域、家族の中で心穏やかに安心して生活する事ができる環境が個々違うので、その方に合わせて考える事が大切だと思います。	困っていても声を上げずにいる高齢者のいる世帯が、同じ地域に住んでいてもコミュニケーションが希薄になっているためわからない。	日常のささいな事でも気軽に相談できるところがあったら良いと思います。	毎日ではないが、たまに職員が足りない日や時間がある。	給料を上げる。	
35	いつまでも住み慣れた土地や自宅で元気に生活していきたい。	病気やケガに悩まされずに、自身の好きな事(趣味の活動など)をしながら生活したい。	できるだけ元気に自分の足で歩き外出したり、自分の身のまわりの事は自分で行いながら、家族に世話をかける事なく、生活をする事が継続できる。	介護保険サービスを利用しながら、家族に負担がかりすぎず、自宅での生活を継続することができる。	免許を返納した高齢者世帯の方が、買い物や通院へ行く事がむずかしいという声をよく聞きます。 コミュニティバスの本数が少なく、行きは大丈夫でも帰りが困るなど…。	海外でよく見かける自宅前にゴミを出す、収集車が回収してくれるシステムはとても良いと思う。			・介護業界全体に慢性的な人手不足があると思う。賃金の低さや労働量、責任の重さにあるのではないかと思います。 家族からも国からも求められる物が多いので、なり手が少ないと思います。
36	状態が変化しても安心して暮らせる環境がある。	働く場、活躍できる場を持っている。	自活できる自信、地域社会に所属できている安心感を持ち暮らせている。	・在宅・施設問わず、地域の中に住まいが持て、馴染みの人との関係性を続けることができる。 ・自身の状態に合ったサービスや社会資源を利用できる。	・在宅・施設問わず、地域の中から、タクシーなど交通費を支払う事への抵抗感が強い気がする。 ・自身の状態に合ったサービスや社会資源を利用できる。	・互助や生きがいづくりに関して、自治会単位でのモデル事業。 ・前期高齢者への介護予防に対するアプローチや、生涯学習・生きがいづくり、生き方講座など。			
37	特になし	特になし	特になし	特になし 自分だったら身体的な苦痛の少ない生活が送れるようになれば良いと思います。	人それぞれだと思います。	「Well-being」はよくわかりません。呼び方を変えた方が良いと思います。具体的に現実的な目標の方が具体策が出ると思います。			・全体的な介護職員の不足・高齢化はそのままケアマネジャーの不足・さらなる高齢化につながります。 ・県内でも政令市以外はケアマネが激減してしていく様相が見えてきています。(ケアマネが都市部に集中しているようです。都市部の不足感はなく、地方では減少しています。) ・高齢化・ケアマネ不足に対応していくべきだと思います。 ⇒セルフケアプランの対応ができるようにする。 ケアマネ向けのIT対策やケアマネ業務に関する相談窓口の設置等
38	地域の人とコミュニケーションをとり、慣れ親しんだ環境で、自分のペースで生活できている。	地域の人と会話したり、色々な活動に参加したりして充実感がある生活をする。	家族の助け、介護サービス(サポート)を利用して、住み慣れた環境で生活する。	介護度に合わせたサービスを提供して、家族とも連携してケアしていく。	・ひとり暮らしで頼れる家族がいない高齢者がいる。 ・高齢になるにつれて人との関わりが減り、話す機会がない高齢者がいる。	地域のひととの繋がり、交流することができるイベントをやる。			課題 ・人手不足 ・人間関係
39	高齢になり人の手を借りないと生活できなくなっても、自治会や市の援助で居宅での生活が継続できる。		介護サービスを利用し、居宅で生活できる。	家族の負担を考慮し、サービスの利用や施設入居		・コミュニティバスの充実化(本数を増やすなど) ・気軽に集まれる場があったり、困っていることなどを伝えられる仕組みづくり			・職員不足 ・若い人(職員)が少ない
40	健康で精神的に安定した暮らし	仕事をし、遊び、趣味、旅行を楽しむ	訪問ヘルパーを使いながら、自分でできる事はやる。	訪問ヘルパー、デイサービス、ショートを利用しながら家族と生活する。それが出来なくなったら施設に入る。	車を運転しない又何処にも行けない。	市が料金を払ってくれてなんでも代行してくれる所	介護業界 仕事内容に対して給料の安さ	ロボット	介護状態に対して見合った人数
41	居宅での生活が継続できている。	近所や人との関わりができて生活			車がない人が外出するに大変	買い物代行	介護施設		
42	地域、育った街で支え合いながら自分らしい生活	・趣味や好きな事に参加し、心や身体の健康を保つ ・人や地域での関わり	・重度化を防ぐ ・人や社会とのつながりを持つ	・支援してもらいながらもその人らしい生活 ・穏やかに過ごすことができる。	助けを求める近隣がいない(孤立しやすい)	高齢になっても社会的役割があり、役割が地域で事業として成り立つこと。			最小限の人事配分であると、緊急時や職員自身の不足が急遽あった場合には、人手不足となる。また、休みを取る側としても取りづらい。(その分、他の人の仕事が増えてしまう。)
43	居宅で生活が継続できている。	サービスを利用し、できるかぎり自宅で家族と暮らす	地域との交流があり、何かあったら助けてもらえる環境		・移動手段がなく、趣味なども持たなくなってしまう。 ・買い物に行くのが難しい。移動手段がない。				・職員の能力にバラツキがあり、ある一定の職員に負担がかかってしまっている。 ・人事異動もしっかり相談した上で、行ったほうがよいと思う。離職の原因につながる為。 ・職員一人一人の能力を上げる。 ・職員の負担を減らす。 ・職員のバランスをしっかりと考える。
44	最後まで元気で自分の事ができるのが望ましい姿であり理想で、住み慣れた地域で生活する。(自宅)	地域で交流し、高齢者同士で助け合って生活する。(自宅)	身体、認知によって違いますが、介護支援によって地域で生活したい。自分でできる事をさせてほしい。	独居の場合は施設に入所。介護2〜3では自分でできるようできない事が多い。	・生活面での支援 買い物、通院、市役所、銀行などの交通 ・年金生活の事を考えてほしい ・交通の便が悪い為に、田舎に住んでいればどこにも出掛けられない	地域にボランティアの組織があったら良いと思います。 ボランティアによって一人一人の支援を考えていく。	3対1が4対1、5対1になる事がある。(介護職員)	カウンセラー	なぜ介護職員が少ないのか、国、県、市の職員が現場に入って1か月くらい研修してみれば良いと思います。本当に人生で1番幸せで大切な場所だと思っています。
45	日常に楽しみがある。人と関わる場を持つ。趣味を持つ。	ストレスを溜めないで、適度な運動やバランスの取れた食事をして、自分の楽しめることをやる。	介護保険サービスを活用し、家事や身の回りのことも見守りや手助けを受けながら生活する。	食事や買い物、日常の動作、食事や排泄などの身の周りのことも部分的な介護をしてもらって生活する。	・足が悪くなって買い物に行けない。 ・一人暮らしの人が増えている。	イベントや習い事が安価(無料)でできる。			
46	公平なサービスを受けながら、その方が望む場所で、その人らしく生活することができる。	その方が望む場所で、地域の人や家族等と支え合いながら、その人らしく生活することができる。	デイサービス等のサービスを利用しながら、その方が望む場所で、地域の人や家族等に支えてもらいながら、その人らしく生活することができる。	サービスを利用しながら、可能な限り、その方が望む場所で専門職や家族等に支えてもらいながら、その人らしく生活することができる。	バス等の公共交通機関が充実していなかったり、スーパー等の施設が少ない地域があったりし、高齢になっても運転せざるを得ない環境であること。	・認知症カフェ等といった高齢者が若い人、子供がふれあえる場所づくりやイベント開催を行う事業 ・食料品や日用品等を販売にまわったり、代わりに購入してきてくれたりする事業(手数料は安く)			介護施設の職員配置基準は利用者3名に対して職員1名となっているが、資格の保有状況や雇用条件等により、基準よりも多く職員を配置する必要があったり、業務負担が偏らないように人員配置する必要があったりするのはないかと思う。利用者の介護度等によっても基準よりも多く職員を配置する必要性等があるのではないかと思う。
47	高齢者が楽しく働ける町になってほしい。				交通手段がもっと便利になってほしい。				人手不足で人数が足りないことが多い。(食事介助の人数が増えている。)
48	利用者家族が安心して入所させられる所、職員教育ができて居る所。	利用者様が落ち着いて楽しく暮らせる。規制、規則に縛られず自由に過ごせる。その人に合った楽しみをやっていただける施設。			高齢者が不安なく、安心して過ごせる町。近所隣同士がコミュニティが昔のように声がかかけられるようになれば良いと思う。	町内に元気ででも独居で家にじっとしていなければならない人がたくさんいると思われる。部落の集会所等を利用して話ができたりする場所。			
49	健康で精神的な安定をした生活ができて居る。	やりがいのある仕事をしたり、余暇を楽しむような生活	自宅での生活を続けることができるよう介護サービスを利用する。	介護サービスを利用して可能な限り自宅で家族と生活をする。	交通の便をよくする。	通院や買い物の同行			介護度が軽度でも介護の必要性が高い人がいるので、介護度で決めず、その人の状態に合った職員の配置をしてほしい。
50	住み慣れた地域で仲の良い人たちと気持ちよく生活することができる。	住み慣れた地域、自宅での生活が継続できる。 老人クラブ等の活動に参加することができる。	周りの支援や手助けを受けながら住み慣れた地域、居宅での生活を継続することができる。	多職種連携での支援や家族の手助けを受けながら最期まで住み慣れた場所・本人が希望する場所での生活を送ることができる。	高齢者が施設入所している場合、近隣施設との協力(連携)体制が難しい。	高齢者と子どもや若い人たちが触れ合うことができる事業			・土日に出動できる職員が少なく、他ユニットからの応援に入ってもらったため入浴介助も困難な時がある。 ・入浴介助を午後に行う日にはフロアで見守りや入所者様の対応ができる職員が1人になってしまったため、もう1人か2人職員がいてくれると助かる。
51		ご近所とのコミュニケーションがあり、困った時に助け合うことができる信頼関係がある。	移動販売等利用して自分で買い物ができる。配食など取りながら、食事の確保ができることが理想だと思います。	デイやショートを利用して、外部とのコミュニケーションや身体の清潔が保たれること。					
52	自分の目で見て買い物気軽にできるようになれば良い。 車がなければ、どこへも行けない人がいる地域がある。	笑顔で買い物している姿 家にいない。 外に出かける。	自分でできることはやるのが望ましい。 近隣との関係性がよければ声掛けなどしてもらい、助けてもらう。		足が無いことが一番の問題。 どこへも行けないで家にこもってしまう。				
53	自分が居心地の良い場所で、生活をする。	みんなで集まり、ゲートボールまたは体を動かす、話をする。 車で自分の運転で買い物、用事をこなす							新しい人が入ってこない。 職員の年齢が上がってきている。
54	地域や居宅で話し相手がい健康に生活できている。	趣味を持ち、気の合う仲間と過ごしている。	身体的な不安を相談でき、受診や生活に困ることなく自立している。	家族の負担にならないようにサービスを利用していく。 独居なら施設で不安なく過ごす。		困った事をすぐに相談できる窓口やすぐに訪問できる事業 独居への定期的な訪問			
55	健康で一日でも長く住み慣れた自宅で最後まで過ごすことができる。	趣味やスポーツなどで仲間作りができる。 プライバシーを守りつつ困った事があれば助け合える地域づくり。	家族や周囲に見守られながらまた介護サービスも利用しつつ、自立した生活ができる。 運動や生活を見直して介護予防を図る。	医療・介護・福祉サービスを利用し、住み慣れた場所での生活ができれば幸せだと思います。	困った時に相談相手がない。 店が遠くになく、高齢でも車で買い物に行かなくてはいけません。	ゴミ出しや草取り、電球の交換などちょっとしたことをやってもらえると助かるような事業があると良いと思います。			

No.	問1①	問1②	問1③	問1④	問2	問3	問4①	問4②	問5
56	健康で話し相手のいる生活が継続できる。	フレイルの予防ができ、心身共に健康でいる。	・排せつ、食事は自立 ・歩行や両足での立位保持などの動作に何らかの支えが必要 ・身だしなみ、掃除など身の回りの世話に手助けが必要	・要介護2は身の回りのことを自分で行うのが困難になる。 ・要介護3になると日常生活のほとんどが自分でできず、要介護4、5は在宅生活がほぼ難しくなります。	・免許返納した後の外出が大変(バス停が遠い) ・ゴミ出しをする場所が遠い。分別が難しい。 ・ヘルパーが入っていても廃ラ出しの時間が決まってい出すことが難しい。	トレーニングルームを作る。	朝のデイサービス送り出し、夕方のデイサービスの迎えなど、朝晩に訪問が集中する。	資格を持っている人の登録	・介護保険のみならず、障がいサービスも事業所のサービス中止や縮小されている。 ・どこも限られた人数でやりくりしています。 ・職員の高齢化
57	住みたい所に、苦痛にならない人とのかわりがあり、安心して自分らしく生活ができる。	困った事を相談できる人がいて、自分でやれることが(決定できることが)自分のペースで続けながら生活ができる。	基本的には介護度は関係なく、困っている部分を手伝ってくれる人がいて、自分の意向が伝わって生活できること。	基本的には介護度は関係なく、困っている部分を手伝ってくれる人がいて、自分の意向が伝わって生活できること。	・買い物や受診に行くことが難しい人が増えた。 ・コミュニティバスで受診には行けるが、帰りの時間にバスがなかったり、受薬の場所がアクセスが悪く取りに行けない人がいる。 ・ごみステーションまで行くことができない人が増えた。	・可燃ごみ出し以外のごみも近くの収集場で出すことができるサービス(袋には入らない粗大ごみの処理券など) ・ちょっとした困りごとの対応を安価で行ってくれる(御用聞きみたいなど)		障がいサービス事業を撤退している所が増えていると聞きます。 資格がないと対応できないこともあるので有資格者の確保(登録でも可)	拘束時間が長い。 市外への外出(移動支援)や移送サービスから通院介助の支援日が重なってしまう日は、通常業務の方に時間や日の変更をお願いすることがある。
58	・その人の希望が叶う生活 ・元気に地域の交流に参加できる ・笑顔でいられる	・やりたいことを続けられる ・自分のできることは助け、できないことを助けてもらうことがあたりまえにできると良いと思う。	家族(介護者)の負担を減らし、皆が笑顔でいられる。	家族(介護者)の負担を減らし、皆が笑顔でいられる。	・家族の不仲の人 ・閉じこもりやごみ屋敷状態の人がある	健康な期間をできるだけ長く続けられるように、体力維持の行事や体験などの催しを企画		職員の高齢化です。 若い職員に引き継いでいくことが難しい状況です。資格は持っていない訪問介護よりも施設系に行くか、資格を持っているのみで就職は希望しない人が多いと感じる。 中学生、高校生に積極的に介護現場に参加してもらったりする。	介護保険、障がいサービスにより必要な資格が違う部分があり、どの職員でも対応できるというものではないです。 利用者や介護者の相性もあり難しい部分はあります。 体力(身体的負担)が必要な介助では、職員の数を増やして対応のこともあります。 ハラスメント的行為や要求には気分が沈んだり、理不尽に感じます。
59	意思決定ができる内に、自分の希望する暮らしの道筋をつけておく。または、近親者に伝えておく。 自宅であっても自宅以外の住居(施設)に移行したとしても、できれば生涯「自分らしく暮らせる」環境がある。	楽しく生き生きと暮らしている。生涯、主体的に(意思決定して)生きるために今後どう暮らしたいか元気な内に考える。例えば、住環境などを変えたいのなら元気な内に進めておく。 亡くなった後はどうしてほしいかなども考え、今できることは自分で行い、できないことは実現してくれる家族等に伝える。またはエンディングノートなどを残す。	・サービス、家族や知人の助けも少し借りながら、楽しく生き生きと暮らす。 ・身体機能の維持向上。 ・今後どう暮らしたいか、亡くなった後はどうしてほしいかなども考え、実現してくれる家族等に伝える。またはエンディングノートなどを残す。	安心安全な環境に必要な質の良い介護を受けながら自分らしく楽しく快適に暮らす。	既に達成していることもあるかもしれませんが... ・バリアフリー、ユニバーサルデザイン、合理的配慮の増進...転倒防止の意味でも(転倒でADL低下しやすい) ・運転ができなくなった場合の移動手段 ・得意だったことを活かせる機会・趣味が継続できる ・人との繋がり・社会との繋がりが継続できる ・年金で生活が困らず暮らせる ・今の若者や子ども等も老後に安心して幸せに暮らせるよう、近い将来だけでなく未来(の財政)も考え計画的に準備する。			賃金アップと福祉の魅力発信	もっと余裕のある配置ができればサービスも手厚くなるが、人件費を考えると難しい。(物価高騰もあり経営が厳しい)
60	住み慣れた地域で希望する生活が送れる。必要な支援が滞りなく受けられる。	不自由なく、安心して生活が送れる。	・本人や家族が必要な(望む)サービスが利用できる。 ・自己決定できる、家族負担が軽減できる。	本人や家族が必要な(望む)在宅サービスや施設入所がスムーズに利用できる。	・地域の実情等によって異なる生活課題を見出す(交通弱者など)。 ・支援する家族等の問題(虐待や病気等)へのアプローチ	具体的には浮かばないが、地域住民等の善意(ボランティア)だけに頼らない事業			
61	住み慣れた地域で、昔からのつながりを継続し、周囲の人たちの見守りの中、暮らしていける。	・負担のない範囲で地域の中の役割を担ったり、自分の好きな趣味活動を続けられる。 ・外に出る活動を行い仲間を作る。	・地域の見守りの中、小さな困りごとは相談しながら自分の望む場所で生活できる。(話し相手がいる。) ・生活の中に楽しみを見つけ活動できる場がある。	介護者に負担を掛け過ぎない、しっかりとした支援を受ける。自分の思いを上手に伝えられない事も多くなってくると思うが、安心して暮らせることが良い。	・買い物に行けない(介護保険の訪問介護だと自分で店に行き選ぶことができない。自費が高い) ・受診など移動がタクシーだと金銭的に大変になり、必要な外出ができない	・安価で買い物に連れて行ってくれる。 ・介護保険では対応が難しい手続きなどに同行してくれる人がいる。 ・訪問ボランティアの様に少しの困りごとに対応してくれる。			
62	住み慣れた地域で高齢者が望みが叶えられ、自宅での生活が継続できる。	・健康で病院受診が必要ない。 ・近所付き合いや地域参加に不自由がない。	適切なサービスが利用でき、ADLの低下が予防できている。	適切なサービスが利用でき、家族にも負担をかけずに安心して生活できる。 ・寝たきりにならない。	・夜間の見守りや支援が受けられるサービスがあれば在宅で生活が続けられる方もいる。 ・リハビリ関係のサービスを利用できる環境を増やしていくことでADLの向上や維持ができる。	職員不足により散歩や外出など対象者が希望した時に援助できない。	介護職員の福利厚生や賃金アップを支援する事業	入居者数に対して職員が少ないため、1対1でゆとり関わるのが困難	
63	住民それぞれが希望する地域で、共生・自活できる。	住民それぞれが希望する地域で、共生・自活できる。	・住民それぞれが希望する地域で、共生・自活できる。 ・必要な支援を希望する時に受けることができる。	・住民それぞれが希望する地域で、共生・自活できる。 ・必要な支援を希望する時に受けることができる。	町自体に元気がないところ(働く、楽しむ、遊ぶ、買い物する場所が少ない)	・様々な年代の人が共生できることを考え、対応してくれる事業 ・一時保育や学童時間の延長、雇用の創出、ボランティアやサークル、クラブ等の活性化			・職員配置は現在充足していると思われます。 ・配置数として適切であったとしても、個々の利用者の満足度や介助量、リポート率を考えると適切人員より多い配置が必要だと思えます。また、数だけでなく質の問題も課題と考えます。
64	・住み慣れた自宅で、好きな時に好きな人と過ごすことができる。 ・同居家族以外との継続的なつながりが保たれている。	住み慣れた所で、自分の意志でなじみの人と関わって過ごすことができる。	・住み慣れた地域で、自分のことは自分で決められる、または決めることを支援してもらいことができる。 ・本人が希望しないサービスを一方的に受けることがない。	安心、安全の中で自由と決定権を最大限尊重されている生活	・市外に出た若者を主に、菊川市に帰ってきやすい、戻ってきやすい街づくり ・遊ぶ施設、食べる施設、子供を預ける施設の充実 ・若者が定着、もしくは一定数いないと支援する手がなくなる。	・自治会の枠を超えた(地域でまとまりすぎない)全体を見渡す民間の力 ・男女問わず基本的な家事能力の向上	給与増		昼夜問わず、見守り、活動支援する人員の不足(不十分) 昼人員不足⇒活動不足⇒夜不眠⇒昼傾眠(活動不足)
65	健康で日々の生活に楽しみがある。家族と一緒に生活を続ける。	自分でできることは自分でやり、住み慣れた自分の家で生活を続ける。	自分でできることは自分でやり、住み慣れた自分の家で生活を続ける。	可能な限り自宅の生活を続け、介護サービスも上手に使っていく。在宅生活が厳しくなったら施設入所も検討する。	市内でも地域によってお店や介護サービス施設の充実度に差がある。	要支援や介護でなくても使えるサービスがもっとあったら良いと思う。	わかりません	職員の待遇改善	余暇活動を充実させる体制が取れない。お話しのできる入所者さんが楽しく過ごせるような体制も整えられたら良いと思う。
66	どのような状態の方であっても、自身で選択しながらその人らしく生活が続けられる。	社会とのかかわりを続け、今後の生活に不安なくビジョンがたてられる。	社会とのかかわりを続けながら、身体・精神状態を維持できる。	社会とのかかわりを続けながら、身体・精神状態を維持できる。	・夫や妻などがほぼ1人で介護を担っていることが多い。 (若い世代は働き盛りであったり、遠方に住むことが多い) ・コロナ禍をきっかけに外出の機会が減ってしまった人が多い。	・病院や買い物などに気軽に利用できる交通サービス・夜間サービスの充実 ・健康や介護などに対する相談や話しを気軽にできる場(集まりの場)			配置の人数ギリギリだと、レクや活動などの楽しみの提供や個別ケアの実施に限界がある。 排泄・入浴・食事などの業務に追われてしまうのが現状。
67	出来なくなったことは支援を受けながら、高齢者の方々が望まれる住み慣れた地域で最後まで自宅で生活ができる。	健康寿命を延ばし、自分のことはできるだけ自分でできる期間を長くすること。	少しの支援で、自分のできることを継続していく。	できなくなったところを支援してもらい、その人らしい生活ができる。	色々な支援があるが、実際に使ってみてどうだったかの評価し、改善ができていないところ。	在宅生活を本人が希望されたとしても、ご家族に介護力が無ければ実現は難しく、家族が見れないとなれば施設入所を考えざる負えない現状です。 現在の菊川市には特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)が無く、施設入所の選択を他市町村に頼るしかない状況です。最後までその人らしく菊川市で暮らすには、施設の新設が必要かと思えます。 一度、その件につきましては長谷川市長とご面談の機会をいただければと思います。自分たちもやがては高齢者となり、支援する側から支援される側になります。誰もが最後まで安心して暮らせる菊川市となりますように尽力していく所存です。宜しくお願い致します。			高齢者支援の仕事はやりがいがあり、人のお役に立てる。地域貢献できる仕事であることをSNS等で発信していくことで子供たちや若者に知ってもらい、将来の職業選択に加えてもらえるようにしていく。
68	孤立した生活にならない。	家の中にこもらないよう外に出る。	友人、親しい人達と話をする。	自分でできることは自分でやる。	異動する手段が少ない。	粗大ごみの収集			
69	住民が希望する、住み慣れた地域・居宅での生活が継続できている。	自分の事は自分で行える。	家族の言う言葉を聞く耳をもつ	世話になっている人に対してありがとうが言える人になりたい。	買い物に行くことが難しい高齢者が増えていく。	自宅の前にゴミを出す、近所の人が安価で収集場まで運んでくれる事業	訪問ヘルパー、訪問看護、自費のヘルパー(格安のもの)	経済的支援がないと自費ヘルパーも利用できないのでケアマネがやっていることが多いので時間がない	菊川市の役割分担が必ずあり、出席することが大変である。
70	住み慣れた地域でできるだけ自宅での生活が継続できる。	・自分の家で自分の好きなことができる。 ・外出できる、(車の運転もしくは車に替わる交通手段があること。)	・自宅において適度の支援(必要な支援)を受けられることができる。 ・下肢筋力を落とさないための対策が充実している。(通所など) ・認知症予防のため他者との関わりができる集会へ参加できる。	・住居の場所が本人の望むところで必要な支援を受けられること。 ・できる限り自宅で過ごせられるような家族、周りの支援があること。	外出が自由にできる仕組みを作ってほしい コミュニティバスの有効活用 企業への福祉バス応援依頼	誰もが必ず高齢になるため、高齢になっても、この菊川市で生活できるように、市全体の課題として福祉関係者のみならず市内企業や商工会等にも呼びかけ、もっとボランティア人材を活用していく事業	・訪問介護(ヘルパー)、夜間対応ヘルパー、早朝対応ヘルパー ・自費の受診付添ヘルパー、買い物付添ヘルパー等	市や県の補助金申請事業(不足している業務の応援事業) 経済的支援がないと協力者も得られない。	小さい事業所なので業務以外の役割分担(割り当て 例:〇〇協議会等)があると負担が大きく、通常業務がこなせなくなって、ボランティア残業や休日出動を休まなくてはならない。(それだけでなく必須受講研修もあるため大変!)